

国出づる医 Q&A

①

日本の薬剤費は年間約8・5兆円に上り、医療費全体の約2割を占める。政府は様々な削減策を進めている。(1面参照)

Q 政府が普及に力を入れている後発薬(ジェネリック医薬品)とは何か。

A 特許が切れた新薬の成分を使って開発する薬の

後発薬利用、目標引き上げ

3 こと
本で
シェ
割に
欧米
政

「かかりつけ薬局」広がるか

ことで、価格は新薬よりも3〜5割安いとされる。日本ではジェネリックの市場シェア(数量ベース)が5割に届かず、60〜90%台の欧米各国より低い。

政府は医療費の伸びを抑える政策の一環で、普及を後押ししている。6月に決めた経済財政運営の基本方針(骨太の方針)で、シェア目標を従来の「2017年度末に60%」から「18年度末に80%以上」

に引き上げた。

Q 日本ではなぜ薬が多く使われるのか。

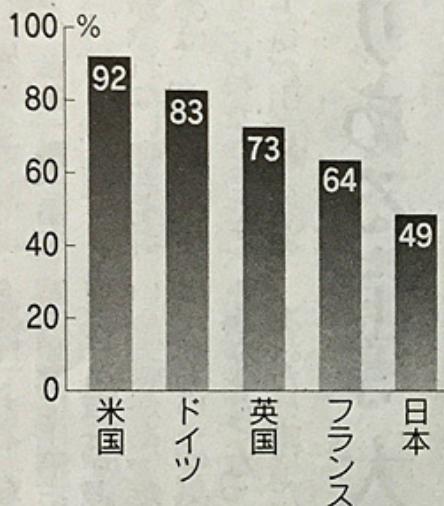
A かつては薬の公定価格と納入時の割引価格の差額(薬価差益)が医療機関の収入源となり、薬を出せば出すほど利益が上がる仕組みだった。いまだに同じ感覚で薬を出す医師がいるとの指摘がある。日本人の「薬好き」も影響している。

題化したことで、医師と薬局が診療と調剤を分担する「医薬分業」が推し進められてきた。1974年、医薬分業すれば医療機関の収入が増える仕組みに改められて以降、分業率(院外処方割合)が上昇、80年度の3・9%から13年度は67%に伸びた。

Q 薬局や薬剤師の役割はどう変わるのか。

A 政府は患者の服薬状況を管理する「かかりつけ薬局」を持つよう促している。顔なじみの薬剤師が薬の重複や飲み残しをチェックすることで、副作用による健康被害や医療費の無駄づかいを減らす狙いだ。

日本はジェネリックの普及が遅れている



(注) 2013年10月~14年9月の数量ベースのシェア(IMS Healthのデータを基に作成)

は出すほど利益が上がる仕組みだった。いまだに同じ感覚で薬を出す医師がいるとの指摘がある。日本人の「薬好き」も影響している。

ある医師は「薬を出す医師ほど良い医師だと考える患者が多い」と話す。

Q 対策は。

A 「薬漬け」が社会問